

第 35 回「菅総理」

菅総理が誕生し、法政大学の後輩として非常にうれしく誇りに思います。菅総理は空手部、私は合気道部でした。当時の空手部は、学内でも群を抜いた厳しい軍隊調の部でありました。一例を挙げると、昼食時、大学食堂の一角を空手部が専有し、中央部に上級生がドカッと座り、下級生が奴隷のように背後に待機し、「^{オス}押忍！^{オス}押忍！」のあいさつを連呼し、食事とお茶を運んでいました。

これが空手部の伝統であった訳ですが、菅総理が幹部・副主将になった時点でガラリと変え、前記のような食事光景はなくなりました。厳しいのは稽古だけで良いという考えでした。誰しもが下級生のときは理不尽と感じて、いざ自分が幹部になるとそのことを忘れてしまい、あしき伝統が継承されるのが常だと思います。菅総理には、学生時代から「前例踏襲・既得権益」排除の精神が宿っていたと思われま

「自助・共助・公助そして絆」、「コロナ感染対策と社会経済活動の両立」、「国民から見て当たり前のことをやる」、「規則改革」、「活力ある地方を創る」、「少子化に対処し安心の社会保障を」等々、菅総理は、現場で磨いた大局観に基づき、日本再生に向けて「**本気**」で取り組み始めました。